

## ■ 解答・解説

問1 (a) 「うつくし」＝かわいい・愛らしい (いとおしい) という意味。(b) 現代語の「美しい (きれい・立派だ)」とは異なり、古語では小さなものや幼いものに対する「いとおしくてかわいい」という気持ちを表す。

※入試・定期テストの最頻出語。「うつくしきもの」＝「かわいいもの」と訳す点に注意。

問2 (a) 「ちご」＝幼い子ども・赤ん坊 (乳幼児)。(b) 「ねず鳴き」＝ねずみの鳴き声に似せて口で「ちゅっちゅっ」と音を立てること。(c) 「あまそぎ」＝髪を肩のあたりで切りそろえた、子どもの髪型 (尼そぎ)。

※「ちご (稚児)」は語句問題でよく問われます。「子ども」とだけ訳さず「幼い」のニュアンスを入れると確実です。

問3 (例) 瓜 (うり) に描いた、幼い子どもの顔。

※瓜の表面に子どもの顔を描いたものことで、あどけなくてかわいらしいものの一つとして挙げられています。

問4 (例) すずめの子が、(人が) ねずみの鳴きまねをすると、それにつられて飛びはねるようにしてやって来る (様子)。

※「ねず鳴き」は、ねずみの鳴き声に似せて「ちゅっちゅっ」と口で鳴らすこと。それに反応して寄って来る雀の子を「かわいい」と言っています。「をどり来る」は「踊る (飛びはねる)」＋「来る」。

問5 「をどり」＝動詞「をどる (踊る)」(飛びはねる) / 「来る」＝動詞「く (来)」。

※「をどり来る」も二つの動詞が組み合わさった複合動詞で、「飛びはねるようにやって来る」の意味です。

問6 (例) 二、三歳ぐらいの (幼い) 子ども。

※「二つ三つばかりなる」＝「二歳か三歳ぐらいの」。「ばかり」は「～ぐらい」の意味で、おおよその程度を表します。

問7 (例) はって (やって) 来る。

※赤ちゃんが手足を使ってはい進んでくる様子を表しています。

問8 「はひ」＝動詞「はふ (這ふ)」(はって行く) / 「来る」＝動詞「く (来)」。

※「はひ来る」は「はって (やって) 来る」の意味。二つの動詞が組み合わさった複合動詞です。

問9 (a) 過去 (～た)。(b) 連体形。

※直前の「ちひさき塵の」を受け、下の「を」に続くため連体形「ける」になっています。「ちひさき塵のありけるを」＝「小さな塵があったのを」。

問10 イ (すばやく目をつけて)

※「目ざとし」は、小さなものでもすばやく見つける、目が早い、の意味。小さな塵をめざとく見つける幼児のしぐさを「かわいい」と描いています。

問11 (例) いかにもかわいらしい様子の (かわいらしげな)。

※「をかしげなり」は「いかにもかわいらしい・趣がありそうだ」の意味。ここでは小さな指のかわいらしい様子を表しています。

---

問12 「および」=指 (ゆび)。

※「をかしげなるおよびにとらへて」=「かわいらしい指でつまんで」。塵を小さな指でつまむ幼児のしぐさを表しています。

---

問13 (a) 完了 (～た・～ている。動作が完了して、その状態が続いていることを表す)。(b) 助動詞「たり」。

※「見せたる」=「(大人などに) 見せた」。連体形「たる」で下の「いとうつくし」へつながっています。

---

問14 (例) たいそう (とても) かわいらしい。

※「いと」=「とても」、「うつくし」=「かわいい」。小さな塵を見つけて大人に見せる幼児のしぐさを「とてもかわいい」と言っています。

---

問15 「いと」=たいそう・とても・非常に (程度がはなはだしいことを表す副詞)。打消の語を伴って「いと～ず」となると、「たいして～ない・それほど～ない」の意味になる。

※本文は打消がないので「とても」。打消を伴うときの意味の変化もあわせて覚えましょう。

---

問16 (例) 髪を尼そぎ (肩のあたりで切りそろえた髪型) にした幼い子どもが、目に髪がかかっているのをかき払いもしないで、首をかたむけるようにして物などを見ているのも、かわいらしい。

※「かきはやらで」=「かき払わないで」、「うちかたぶきて」=「首をちょっとかたむけて」。

---

問17 動詞「おほふ (覆ふ)」。

※「目に髪のおほへる」=「目に髪がかぶさっている」。「おほへ」は「おほふ」が活用した形で、下に完了・存続の「り」がついて「おほへる」となっています。

---

問18 「で」=打消の接続 (～ないで・～しないで) を表す。現代語訳は「(かき) 払わないで」。

※「～で」は「～ずして」と同じく「～しないで」の意味になる、頻出の接続助詞です。「かきはやらで」=「かき払わないで」。

---

問19 (例) 次のうちから三つ。

・瓜に描いた子どもの顔 ・(ねず鳴きにつられて飛びはねてくる) 雀の子 ・塵を見つけて大人に見せる幼児 ・髪が目にかかったのをかき払わずに物を見ている子ども

※いずれも「小さくて幼いもの」である点が共通しています。

---

問20 (例) どれも小さくて幼く、あどけない (無邪気な) ものであるという点。

※雀の子、塵を見つけて見せる幼児、髪が目にかかった子どもなど、いずれも「小さい・幼い・あどけない」存在で、清少納言の関心が一貫していることがわかります。

---

問21 (a) 清少納言 (b) 随筆 (c) 平安時代 (平安時代中期) (d) ものづくし (類聚的章段)

※『枕草子』は平安時代中期に清少納言が書いた随筆で、日本最初の随筆とされます。「春はあけぼの」のような随想的章段、宮中での出来事をつづった日記的章段に加え、この「うつくしきもの」のように同類のものを集めて並べた類聚的章段 (ものづくし) があります。

---

問22 あけぼの（春はあけぼの）。

※『枕草子』冒頭の有名な一文「春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは…」の書き出しです。

---